

西派四ヶ之總本山、大谷寺、知恩院、黒谷金戒光明寺、神樂岡百萬遍、知恩寺、洛陽淨花院、西山派之二  
本寺、東山永觀堂、禪林寺、粟生之光明寺、深本派之義は、兩本山洛陽誓願寺、蛸藥師圓福寺、右之外諸  
寺諸山之總代、諸寺院之僧侶僧綱、薦次を改め、寺法格式に隨ひ、代々の執奏傳奏に付て、參内有、  
略參内の行粧は、塗肩輿、緋衣、紫衣、香衣、素絹等、僧綱法儀に隨ふ道服也、供奉は、輿廻は布衣、先驅は  
素襖の青侍也、尤内侍所へも庭上より拜事有、神樂錢壹貫文か五百文、格に依肇之、刀自收納之、  
略扱各參内有ては天顔を拜す、併禁中の御儀式は、御前は何れも無言の御禮、附札のみ之披露に  
て、上段二疊臺の上に御褥を被爲敷、御簾御禮通り迄下れば、輕々敷天顔を拜する事不叶也、然に  
大德龍寶山、大德開山大燈、妙心正法山、妙心開山、兩ヶの御禮は、左右列座の公卿も驚き、恐入計之御禮にて、中段  
までうち登り、上段の玉縁に兩手を懸、御褥に頭の付程の御禮とかや、御近臣之御秘法有之也、尤  
寺法格式時の住持の規模と稱す、此中に智恩院一ヶ寺、正月廿八九日兩日之内、御諸司へ付届之、  
武家傳奏の執奏にて參内す、當寺綸旨の申次は、時々典侍、大夫、典侍、新典侍の御取次なれば、智恩  
院參内入門の節、右之局方御家來挨拶に於、御局よりの口上も相述る、扱知恩院宮中にての口上  
に、御忌も首尾能相勤候に付、年頭之御禮申上ると、傳奏議奏の挨拶舊例也、尤法威と稱す、御門の  
蹴發しを庭中に入や否杖を突事を定例とす、今に右の如くの格式也、扱又東西兩本願寺は、内々  
世に知ることく、五攝家の御連枝方にて、尤門跡號を被下、大僧正を拜任す、寺門に於ては富貴第  
一、又我宗派にては威權に榮えたまへ共、禁中關東の格式は不足、夫故に右之日限に御禮申上る  
寺門の列に入給はず、正月の末二月の初めか參内有、強に年禮と申にも非ず、御見廻に口上にて  
參内有、平日心安く東西六條へ出入被成、公家衆一兩輩、御車寄迄出迎たまふ、夫さへ公家衆御傍  
輩中嘲弄有よし聞り、

〔驕驢嘶餘〕梶井殿年頭御參内、御門跡香ノ御衣ニ五條袈裟、北ノ御門ヨリ被入、長橋被參、三荷三